



T&S
Technology & Service

成長可能性に関する説明資料

ティアンドエス株式会社

2020年8月

ディスクレーマー

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその現実や将来の業績を保証するものではありません。

経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。



会社概要

会社概要

会社名	ティアンドエス 株式会社
設立	2016年11月1日
役員	<p>武川 義浩 ...代表取締役 執行役員 社長</p> <p>福田 悦生 ...取締役 執行役員 システム事業本部長（博士（工学））</p> <p>木下 洋 ...取締役 執行役員 業務本部長（公認会計士）</p> <p>遠藤 玲 ...取締役 執行役員 財務経理部長</p> <p>法眼 健作 ...社外取締役</p> <p>長谷川 智彦...社外取締役</p> <p>土屋 雄二 ...常勤監査役</p> <p>望月 篤 ...社外監査役（税理士）</p> <p>藤江 勇佑 ...社外監査役（弁護士）</p>
従業員数	265名（2020年6月時点）
所在地	<p>本社 神奈川県横浜市西区みなとみらい</p> <p>四日市事業所 三重県四日市市</p> <p>北上事業所 岩手県北上市</p>
主な事業内容	大手企業顧客向けシステム開発及び運用保守・インフラ構築、AI（画像処理・認識・機械学習・論文アルゴリズム評価）等のソフトウェア開発を中心にサービスを展開
主な取引先	東芝グループ、日立グループ、キオクシア、ソニーグループ、他15社

経営理念・方針・ビジョン

経営理念

あらゆる産業において、ソフトウェア技術が生み出す新たな付加価値を通じて、お客様に安心と満足そして豊かさを提供すると共に、社員を大切に、株主様に貢献します。

ビジョン

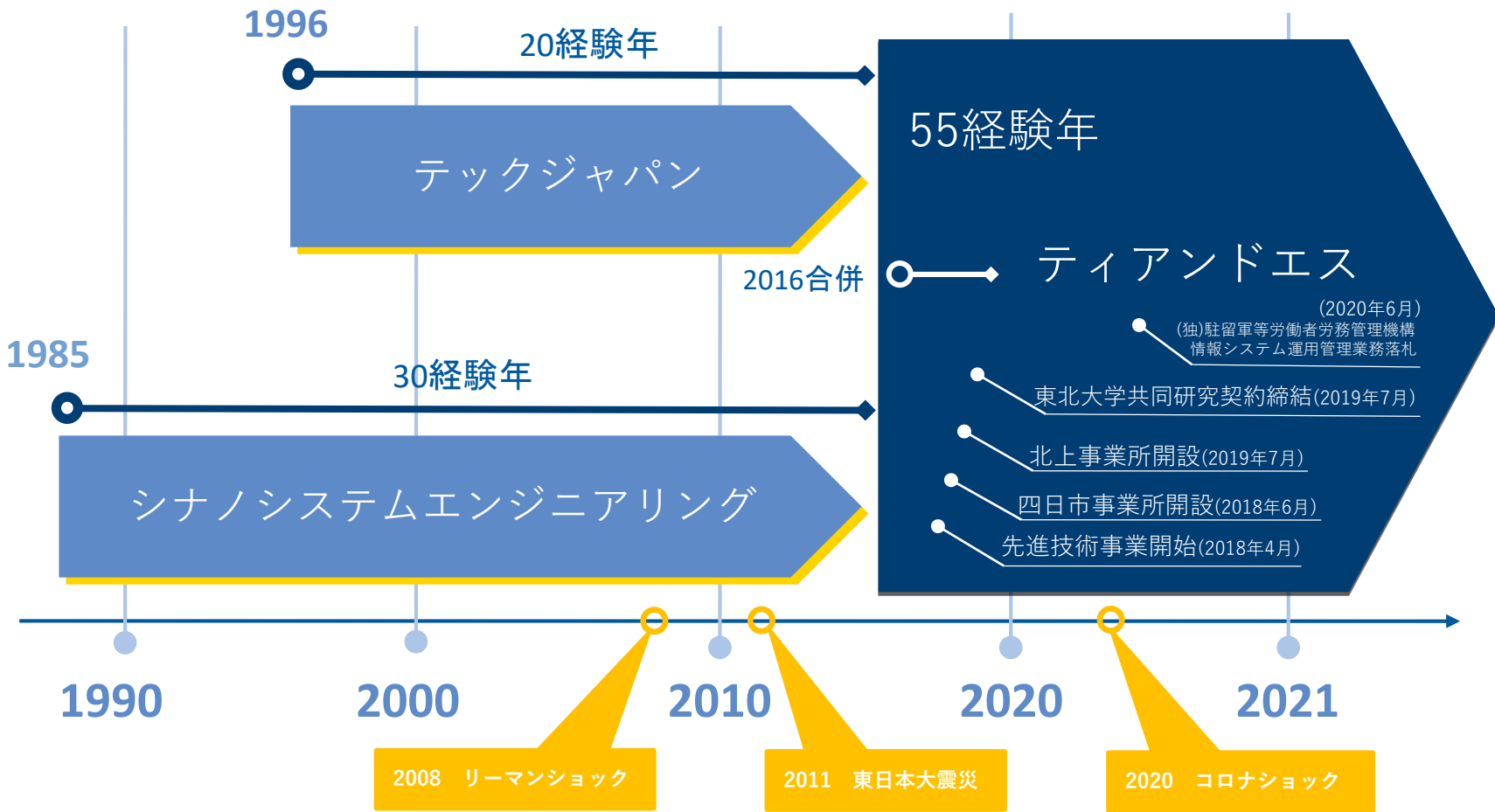
ソフトウェア技術力によりお客様の業務を支援することを基本とし、次世代AIプロセッサ関連の高度なソフトウェア開発を加速します。

経営方針

当社の技術力によりお客様の製商品・インフラ開発を支援いたします。

また、社員全員が当社を愛し、自ら成長し、一人ひとりが希望とやりがいを持てる会社を実現し、地域社会と共に発展できる地域のコア企業を目指します。

当社の歩み



事業内容

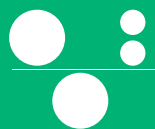
当社の3事業カテゴリーとサービス内容

Sustainability, Robustness and Growth



基盤

ソリューション
カテゴリー



安定

半導体
カテゴリー



成長

先進技術
ソリューション
カテゴリー

当社は、システム開発及びその関連サービスの単一セグメントですが、事業の構成を上記3つのカテゴリーに区分しております。



Solution

基盤事業

ソリューションカテゴリー

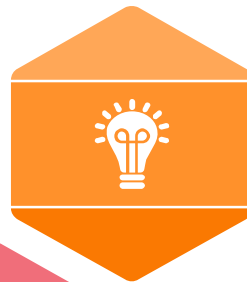
あらゆる産業領域のソフトウェア市場における受託開発

ソリューションカテゴリー（基盤性）

製造業(工場、プラント等)やサービス業など幅広い産業領域のシステム開発を大企業から請負い、その後の運用・保守を含めた全てのバリューチェーンを網羅したサービスを提供します。

①事業モデル

請負を中心とした受託開発事業



④社内体制

お客様のご要望に応じて、請負開発及び派遣、両方の形態で技術及び人材を提供できる社内体制を整備



②事業領域

産業領域に特化せず、製造業、サービス業など様々な業種のユーザー企業をターゲット



⑤事業の特徴（基盤性）

大手企業グループを中心とした顧客戦略に基づき、システム開発・運用保守を中心としたサービスを展開。請負開発だけでなく、第三者検証・運用・保守まで幅広く対応



Solution

③事業範囲

コンサルティング、要件定義、設計、開発、テスト、第三者検証、運用・保守までの
全ての開発バリューチェーンを網羅



⑥主な得意先

東芝グループ、日立グループ、キオクシア





安定事業

半導体カテゴリー

NAND Flash Memory工場の運用・保守サービス

半導体カテゴリー（安定性）

キオクシアのNAND Flash Memory工場に当社技術者を派遣して、工場内システムの開発及び運用・保守、インフラ構築、ヘルプデスク業務等のサービスを提供します。

①事業モデル

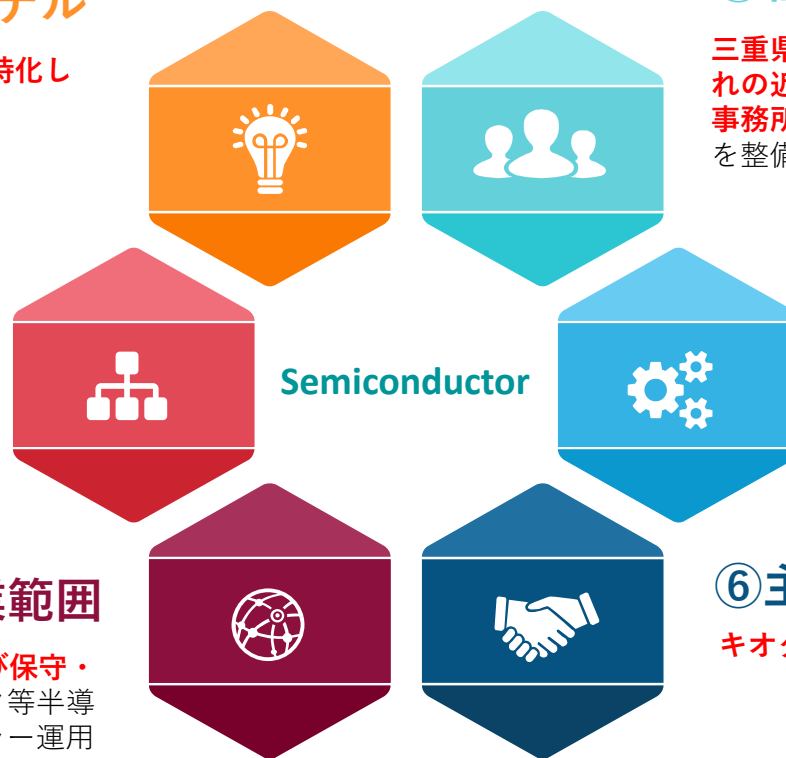
半導体工場内への技術派遣に特化した事業

②事業領域

半導体工場（現在は、NAND Flashメモリ工場）に特化し事業展開

③事業範囲

半導体工場内のシステム開発及び保守・運用サービスや、ITヘルプデスク等半導体工場のITインフラストラクチャー運用支援全般



④社内体制

三重県四日市市及び岩手県北上市それぞれの近郊から人材を獲得し、それぞれに事務所を構え、地域に密着した派遣体制を整備

⑤事業の特徴（安定性）

請負開発と異なり、工場システムの運用や保守を中心に工場に常駐する形態で業務に従事していることから、工場が存続する限り安定的に事業が継続することと人員削減が極めて少ないこと

⑥主な得意先

キオクシア



Advanced Technology

成長事業

先進技術ソリューションカテゴリー

AI関連のソフトウェア開発、及び次世代AIプロセッサ研究開発

先進技術ソリューションカテゴリー（成長性）

- ・急成長が見込まれる産業領域AI（画像処理・認識・機械学習・論文アルゴリズム調査等）の開発、自動運転関連のソフトウェアの開発にターゲットを置いたサービスを提供します。
- ・今後、スピントロニクス技術（STT-MRAM）を搭載した次世代AIプロセッサ関連のソフトウェア開発に進出します。

①事業モデル

高度ソフトウェア技術の請負開発に特化した事業

②事業領域

急成長が見込まれる産業領域AI（画像処理・認識・機械学習）、自動運転等の市場にターゲットを置く。

③顧客の特徴

AI、自動運転等を導入する自動車、デジタル家電、カメラ等のメーカー

④社内体制

博士号を有する人材（6名）を中心に、高度ソフトウェア開発チームを結成
将来技術を先取りするためにAI及びスピントロニクス技術の共同研究を東北大学と開始

⑤事業の特徴（成長性）

今後急成長するAI、自動運転、画像系分野に特化し、事業の成長性を狙う。また、**スピントロニクス技術（STT-MRAM）**を搭載した次世代AIプロセッサ関連のソフトウェア開発へ進出予定

⑥主な得意先

自動車メーカー、精密機器メーカー、半導体メーカー



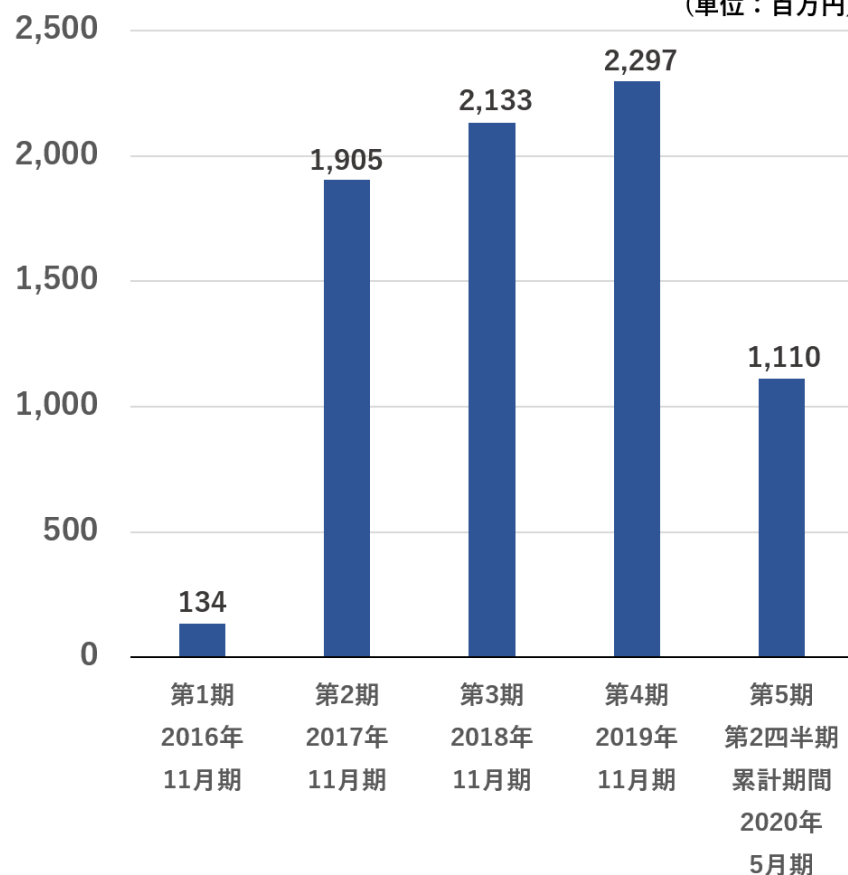


業績

業績推移

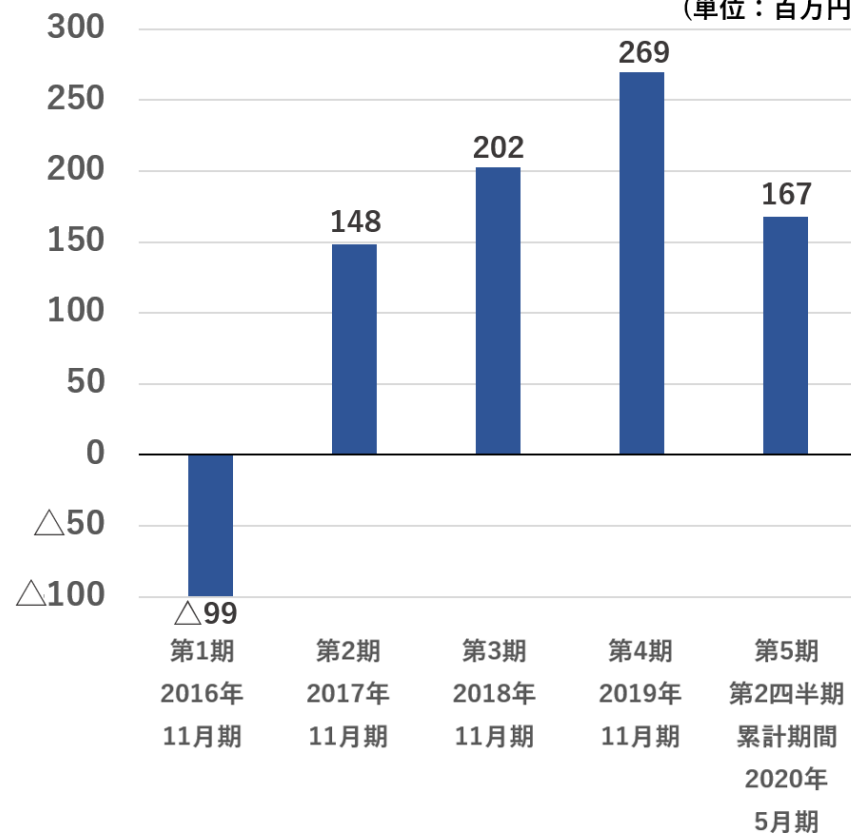
売上高

(単位：百万円)



経常利益または経常損失 (△)

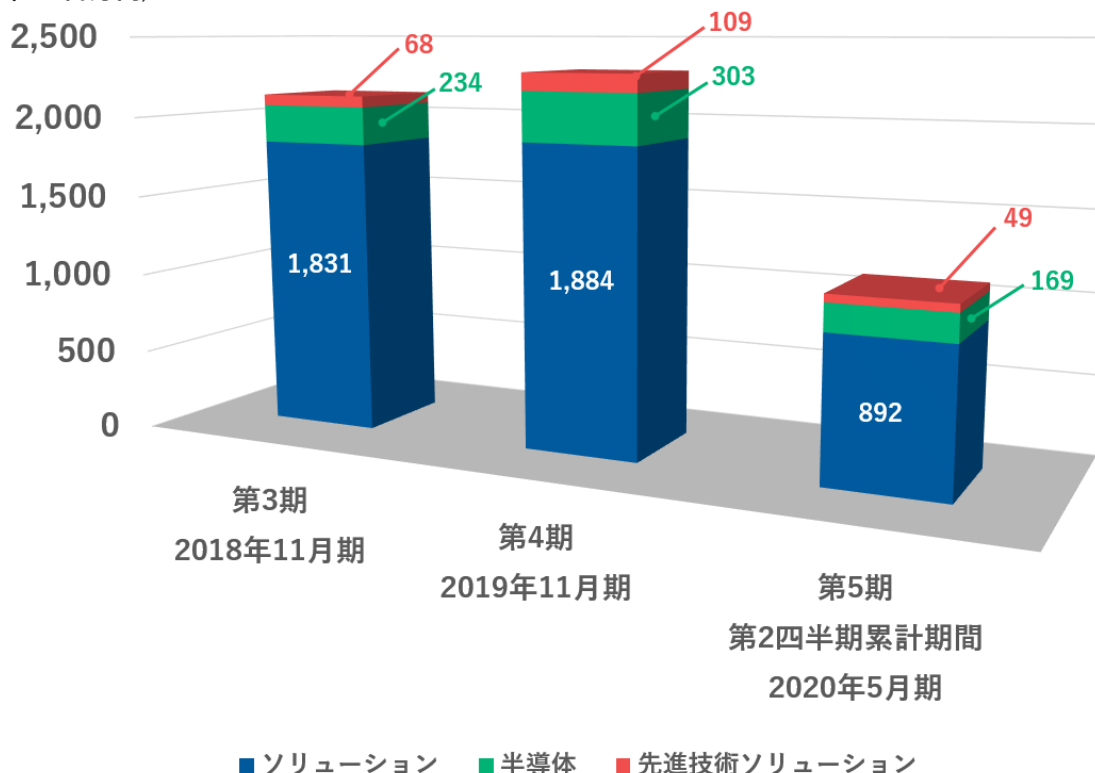
(単位：百万円)



売上高・営業利益率

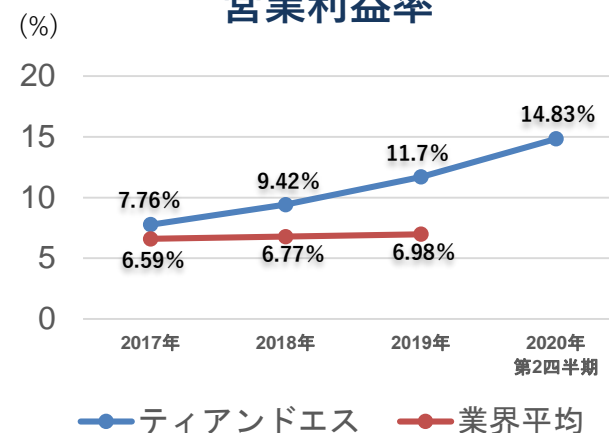
カテゴリー別売上高推移

(単位：百万円)



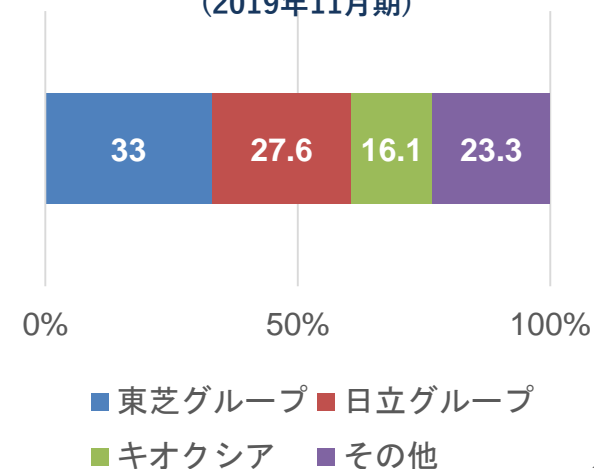
(注)当社の事業セグメントは単一セグメントです。
売上高のみカテゴリー別に集計しております。


営業利益率



顧客別売上高割合

(2019年11月期)





市場動向

市場動向

IT人材不足は今後も継続

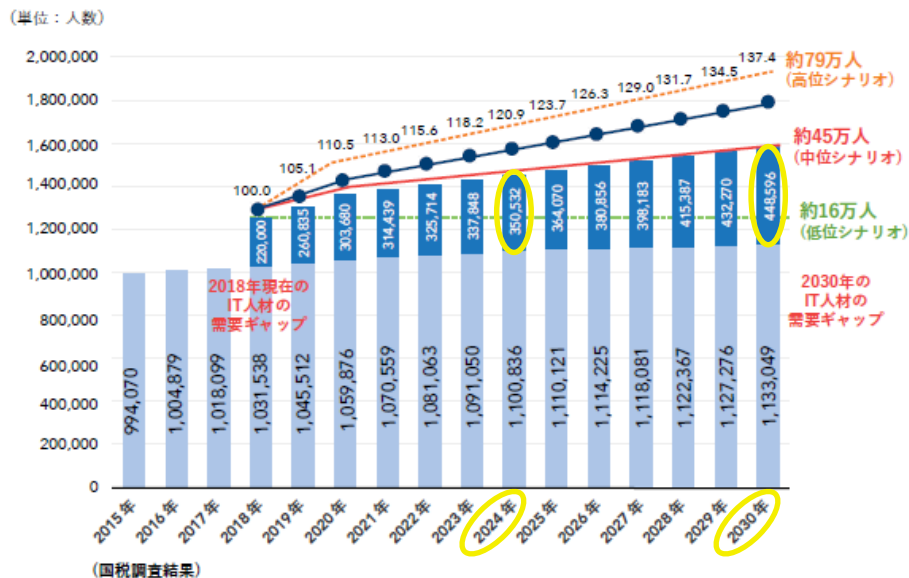
メモリ需要は今後も増加傾向

ソリューションカテゴリー

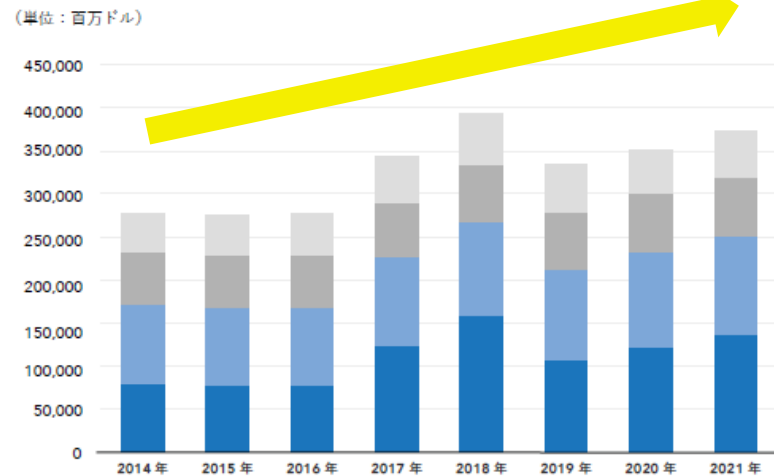
先進技術ソリューションカテゴリー

半導体カテゴリー

- 不足数(人)
- 供給人材数(人)
- 高位シナリオ(需要の伸び: 約9~3%)
- 中位シナリオ(需要の伸び: 約5~2%)
- 低位シナリオ(需要の伸び: 1%)
- 2018年を100とした場合の市場規模(中位シナリオ)



Memory Logic Micro Analog



経済産業省委託事業 平成30年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備 IT人材需給に関する調査より作成

WSTS 2020年春季半導体市場予測より当社作成



成長戦略

各カテゴリーの成長戦略

ソリューションカテゴリー

IT需要の伸びを超える成長

現在の収益基盤

あらゆる産業におけるアプリケーション開発

- ・オンサイト開発支援
- ・ソフトウェア検証
- ・インフラ構築
- ・インフラサービス

IT産業全体の伸びを超える成長

将来の更なる拡大・深耕

対象産業領域の拡大

- －物流、医療等の分野の拡充

既存顧客の深耕

- －継続的なインフラサービスと新規システム更新への対応

半導体カテゴリー

半導体メーカーの工場建設に沿った成長

現在の収益基盤

キオクシアの工場内システムの運用・保守、インフラ構築

- ・四日市工場 第1棟～第6棟
- ・北上工場 第1棟
- ・総勢約60名の派遣人員

NAND Flashメモリ
需要と工場拡大

将来の更なる拡大・深耕

- ・四日市工場の第7棟竣工が決定
- ・四日市、北上とも工場棟内の区画(ライン)増設に伴う当社の派遣人員増

先進技術ソリューションカテゴリー

研究開発の成果としての評価ボードを利用した開発提案による成長


現在の収益基盤

- ・AI(画像処理・認識、機械学習)
- ・AI(論文調査、論文アルゴリズムの実装・評価)
- ・自動運転関連のソフトウェア開発

東北大学との共同研究

将来の更なる拡大・深耕

スピントロニクス技術 (STT-MRAM) を搭載した次世代AIプロセッサ関連のソフトウェア技術をもって開発支援及びコンサルティングによる新たな受注



スピントロニクス技術を利用した
次世代AIプロセッサにより
高度なソフトウェア開発を加速します

